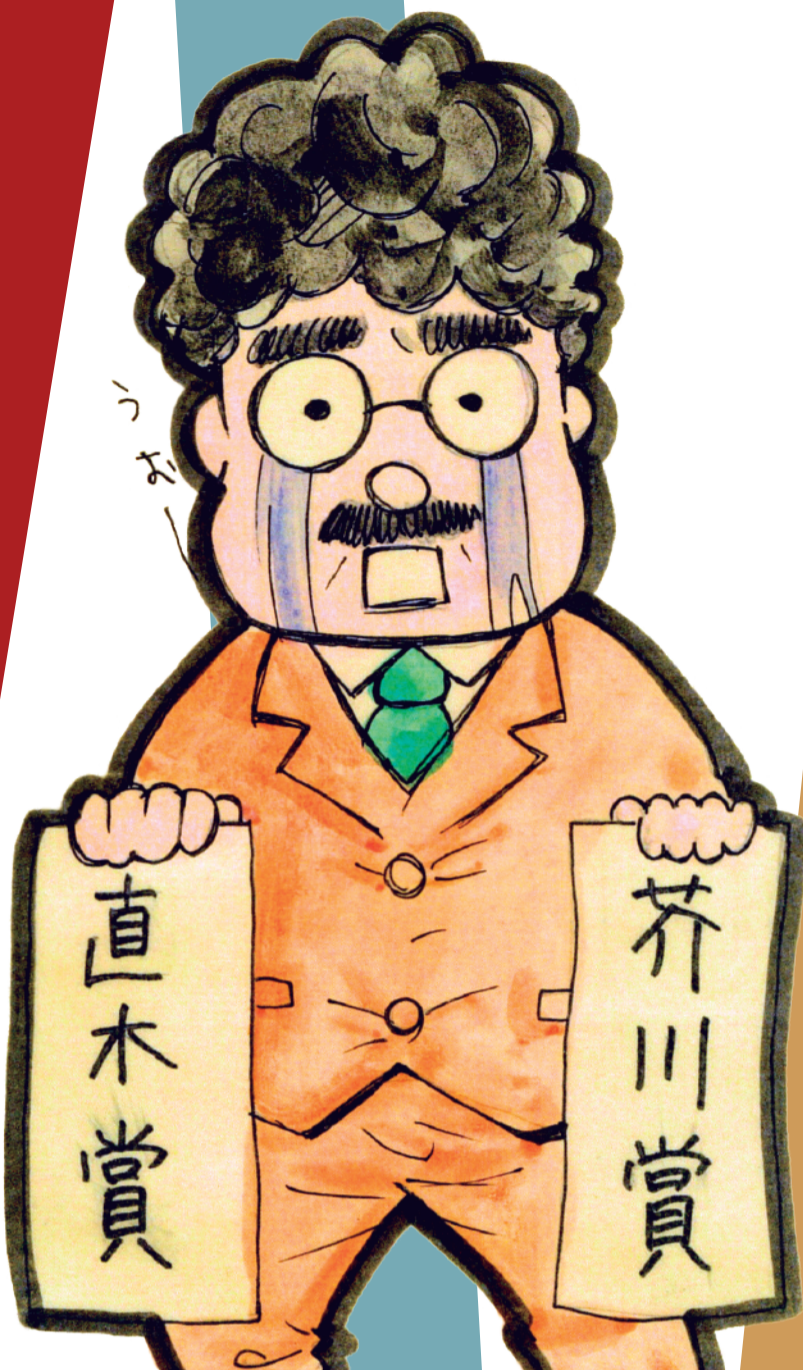


菊池寛
生誕 130年・没後 70年

きくちかん新聞

第5号

友人の名前を未来まで残すため！
若い作家を世に出すため！
『文藝春秋』のにぎやかしのため!!



芥川龍之介賞 直木三十五賞

をつくる!

昭和10年1月、菊池寛は、芥川龍之介賞と直木三十五賞をつくることを宣言した。

友人の名前をつけた芥川賞と直木賞：菊池寛はどういう思いで、この2つの賞をつくつたのだろうか。

■ 3つの理由

芥川賞と直木賞は、どちらもすぐれた文学作品を書いた作家に与えられる賞だ。

芥川賞は芥川龍之介が書いたような芸術的な作品、直木賞は直木三十五が書いたような大衆向けのエンターテインメント的な作品の中から選ばれる。

菊池寛は、若くして亡くなった友人の名前を未来まで残すため、そして若い作家を世に出すために芥川賞と直木賞をつくった。それに加えて、看板作家2人を失った雑誌『文藝春秋』のにぎやかしのためという理由もあったようだ。

■ 賞金の使いみち

エピソード

受賞者には、時計と賞金500円(当時の給与所得者の平均年収が712円)が与えられた。お金のない若い作家たちには大変ありがたかった。

しかし、第1回直木賞を受賞した川口松太郎は、菊池寛に「賞金で皆にごちそうしろ」と言われてしまう。川口松太郎は、友人やお世話になった人100名を招待し、洋食屋「アラスカ」で1人4円の豪華料理をふるまった。当時、一流のホテルでも、洋食は1人2円50銭ぐらいだった。賞金400円を使い切ったことを菊池寛に報告したら、今度は「そんなに使うな」と言われてしまったという。川口松太郎は、「それならそうと早く言えばいいのに」とぼやいたそう。

「きくちかん新聞」は2ヶ月ごとに発行し、菊池寛の一生をお伝えします。Webでも見ることができます。

